9 「幻の広浜鉄道今福線」を活かした地域活性化

今福線を活かす連絡協議会／浜田市　島根県 浜田市

1 社会資本の概要

広浜鉄道は、島根県浜田市と広島県広島市を結ぶ路線で、島根県側を広浜鉄道今福線と呼んでいます。この路線は、戦前（旧線）と戦後（新線）の2度にわたり計画・建設されながらも、戦争による中断と財政難による工事中止により完成することがなかった未成線で、「幻の広浜鉄道今福線」と呼ばれています。

旧線の鉄道遺構であるコンクリートアーチ橋が、平成20年に（公財）土木学会より「今福線のコンクリートアーチ橋群」として、選奨土木遺産に認定されました。路線が河川や道路と交差する箇所では、当時建設された橋台や橋脚を見ることで、ロマンやノスタルジーを感じることができる観光スポットとなっています。

4連アーチ橋（選奨土木遺産銘板）

新旧交差部の様子

橋脚群

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

平成20年の選奨土木遺産の認定や、浜田市でのシンポジウム開催により、今福線は「地域のお宝」として地元に認知されました。

平成28年、「広浜鉄道今福線」を価値ある資源として、観光交流や地域活性化に活かすべく、沿線の地域団体や県技術士会が連携して取り組めるよう「今福線を活かす連絡協議会」を結成しました。

協議会では、行政（遺構管理者）、地域団体（まちづくり委員会やガイドの会等）、専門技術者（島根県技術士会や大学）が、ウォーキング大会の開催、ツアーガイド、環境整備（草刈りや路盤整地等）、トイレ清掃、遺構の補修（漏水対策等）、遺構の技術研究やマップ作成など、それぞれの強みを活かしながら連携して活動をしています。

連絡協議会合同での遺構調査

シンポジウムの様子

ウォーキング大会開始式の様子

3 活動の成果や波及効果等

毎年2月に開催する今福線ウォーキング大会は、普段立ち入りができないトンネルの中や橋梁を見ることができるイベントで、県内外より200人を超える参加者があります。

そのほか、旅行会社が企画する遺構見学ツアーも好評で、一部の参加者から郵送された、お礼の手紙や写真は活動の励みになっています。

来訪者との交流のほか、未成線を利活用する他団体とも交流やつながりができ、ネットワークの拡大を感じています。

第3回全国未成線サミットの様子

案内看板

インフラツーリズムの様子

環境整備の様子

喜びの声

受賞者
今福線を活かす連絡協議会
会長
勝田 二夫

コメント

この度は、栄えある賞を賜り心より感謝申し上げます。

連絡協議会を発足し、構成団体が様々なアイデアを出し合い活動してきたことが報われました。

今後はこれまでの活動をさらに充実させ、地域のお宝である「幻の広浜鉄道今福線」を活かし、地域活性化や交流人口の拡大に精一杯取り組んでまいります。

活動の内容

- 今福線ウォーキング大会
- 植樹活動（桜の植樹）
- 環境整備（草刈り、路盤整備、トイレ清掃）
- 来訪者向け記載台の設置、管理
- イベントやツアー時のガイド
- 遺構の調査研究・計測・図面化、研究報告書作成（国立国会図書館へ納本）
- マップの作成

活動の経歴

平成26年	広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム実行委員会（今福線を活かす連絡協議会前身）設立
平成27年	広浜鉄道今福線を活かすシンポジウム開催
平成27年	しまね景観賞 まち・みどり・活動部門奨励賞受賞
平成28年	今福線を活かす連絡協議会設立
平成28年	今福線 ウォーキング大会開始
平成30年	土木学会インフラツーリズム開催
令和 2年	今福線ガイドの会活動開始
令和 3年	第3回全国未成線サミット開催
令和 5年	手づくり郷土賞（一般部門）受賞

所在地	石見まちづくりセンター 佐野分館（島根県浜田市佐野町イ337−1）
活動主体及び連絡先	広浜鉄道今福線を活かす連絡協議会 TEL：0855-25-9531（浜田市観光交流課内）
対象となる社会資本	広浜鉄道今福線新線及び旧線（ともに未成線）

手づくり郷土賞について
受賞記念発表会
講評
大賞部門
一般部門
資料編